（6）アンケートの実施

1.【調査名】
「子どもの権利を考えるシンポジウム」 アンケート

2.【調査目的】
シンポジウムの講演内容等の理解度や講演内容の理解度についての確認を行う。

3.【調査対象】
シンポジウム参加者

4.【調査方法】
紙アンケート及びWEBアンケート

5.【回答数】
134件　内訳：紙アンケート106　WEBアンケート28

（6）アンケートの実施

【アンケート内容】以下、は会場で配布した紙アンケート。※WEBアンケートと同一内容

ご来場者様アンケート

この度はご来場いただき誠にありがとうございました。
よろしければ下記アンケートにご協力ください。
※アンケートは右記URLからも回答出来ます

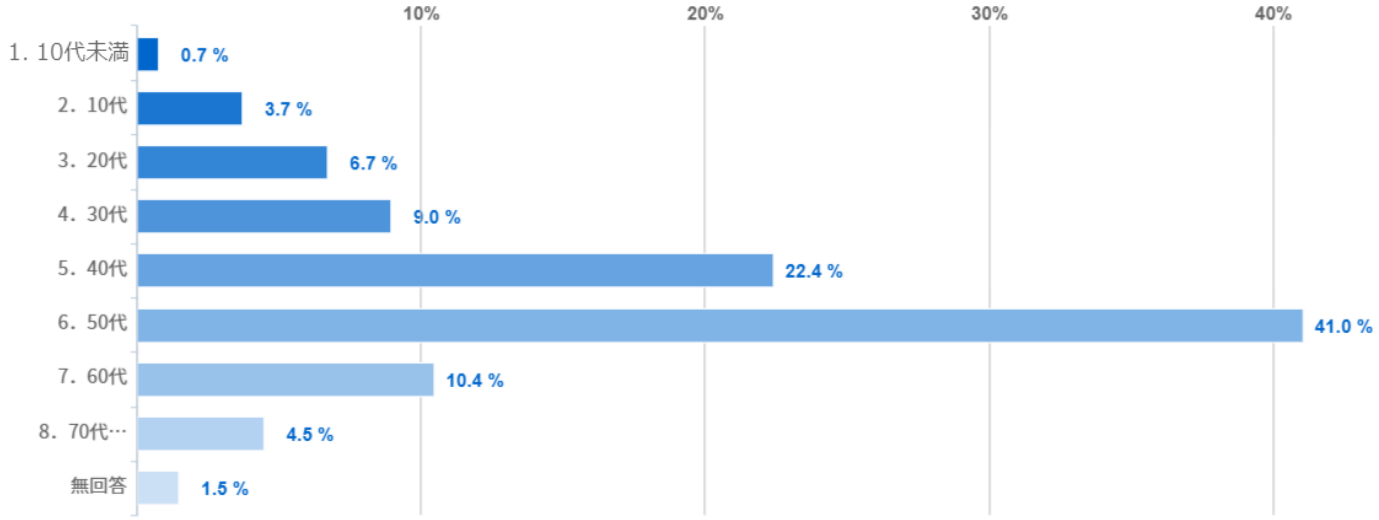
Q1	1.年齢	□10代未満 □10代 □20代 □30代 □40代 □50代 □60代 □70代以上
Q2	2.お住まいの市町村	□那覇市 □那覇市以外
	3.基調講演Ⅰについて評価をお聞かせください 【憲法学の視点から考える『子どもの権利』】	
Q3	3-1.講演の内容に興味を持てましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q4	3-2.あなたにとって参考になりましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q5	3-3.講演は分かりやすい内容でしたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q6	3-4.講演の内容は理解できましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q7	3-5.子どもの権利について、考えるきっかけとなりましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q8	4.基調講演Ⅰについて、ご意見ご感想をお聞かせください	
	5.基調講演Ⅱについて評価をお聞かせください 【権利の視点から考える『沖縄県の子どもの貧困』】	
Q9	5-1.講演の内容に興味を持てましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q10	5-2.あなたにとって参考になりましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q11	5-3.講演は分かりやすい内容でしたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q12	5-4.講演の内容は理解できましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q13	5-5.子どもの権利について、考えるきっかけとなりましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q14	6.基調講演Ⅱについて、ご意見ご感想をお聞かせください	

※裏面に続く

	7.本日のパネルディスカッションについて評価をお聞かせください	
Q15	7-1.パネルディスカッションの内容に興味を持てましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q16	7-2.あなたにとって参考になりましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q17	7-3.パネルディスカッションは分かりやすい内容でしたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q18	7-4.パネルディスカッションの内容は理解できましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q19	7-5.子どもの権利について、考えるきっかけとなりましたか	□はい □いいえ □どちらでもない
Q20	8.パネルディスカッションについて、ご意見ご感想をお聞かせください	
Q21	9.本日のシンポジウム全体について、ご意見ご感想をお聞かせください	
Q22	10.今後聞いてみたい基調講演、パネルディスカッションのテーマ等あればお聞かせください。 また、今回のプログラムのほか、追加したほうがよいプログラム等があればご意見をお聞かせください。	

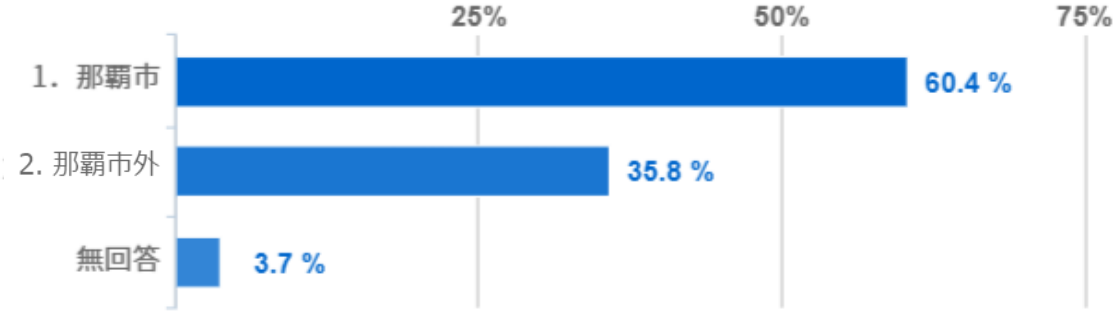
Q1.

あなたの年齢をお知らせください。
(回答数: 134)



Q2.

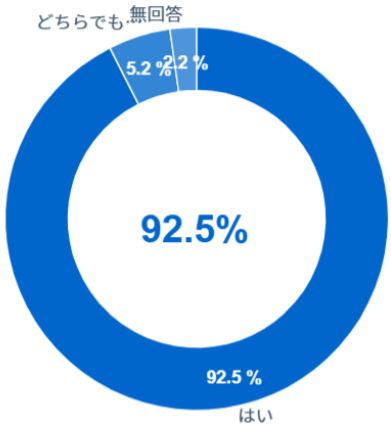
お住いの市町村
(回答数: 134)



Q3.

以下の基調講演（1）について評価をお聞かせください。
基調講演（1)』憲法学の視点から考える『子どもの権利』」
講師：西山 千絵 氏（琉球大学大学院 法務研究科 准教授）

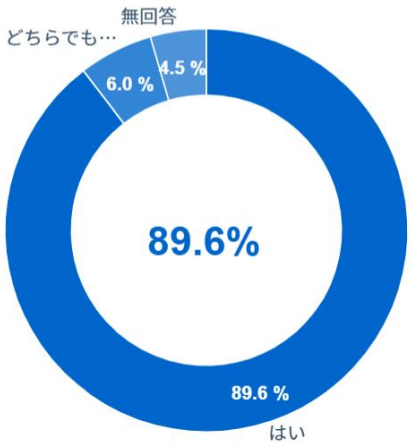
1．講演の内容に興味を持てましたか。
(回答数: 134)



Q4.

以下の基調講演（1）について評価をお聞かせください。
基調講演（1)』憲法学の視点から考える『子どもの権利』」
講師：西山 千絵 氏（琉球大学大学院 法務研究科 准教授）

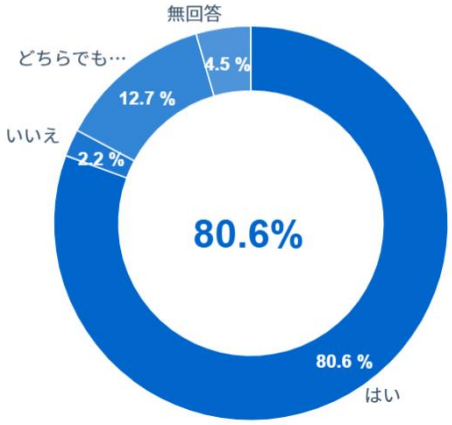
2．あなたにとって参考になりましたか。
(回答数: 134)



Q5.

以下の基調講演（1）について評価をお聞かせください。
基調講演（1)』憲法学の視点から考える『子どもの権利』」
講師：西山 千絵 氏（琉球大学大学院 法務研究科 准教授）

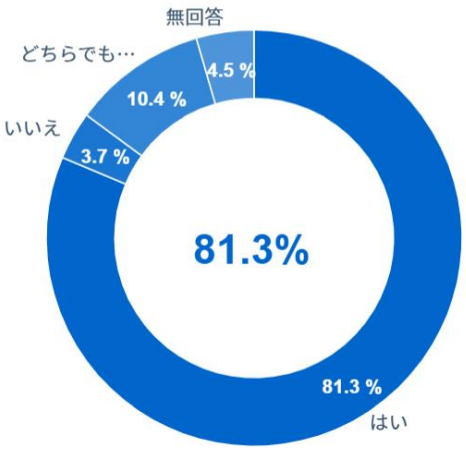
3．講演はわかりやすい内容でしたか。
(回答数: 134)



Q6.

以下の基調講演（1）について評価をお聞かせください。
基調講演（1)』憲法学の視点から考える『子どもの権利』」
講師：西山 千絵 氏（琉球大学大学院 法務研究科 准教授）

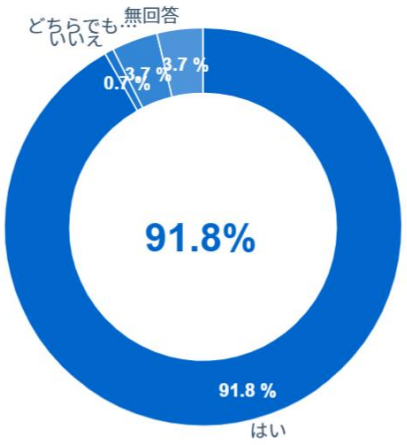
4．講演の内容は理解できましたか。
(回答数: 134)



Q7.

以下の基調講演（1）について評価をお聞かせください。
基調講演（1)』憲法学の視点から考える『子どもの権利』」
講師：西山 千絵 氏（琉球大学大学院 法務研究科 准教授）

5．子どもの権利について、考えるきっかけとなりましたか。
(回答数: 134)



Q8.
基調講演（1）について,ご意見やご感想をお聞かせください。(1/3)

■「子供が特別の存在と思えない社会は子どもの権利をあきらめることになる」、という言葉が印象的でした。大人が自身の生活のみに疲弊せず、子どもに向き合える社会の仕組みを考えていきたい。
■こどもとは何か、という事を考えさせられました。そう考えてみると年齢だけで子どもというストレートなことだけではないと思いました。
■とても分かりやすかったです。 まだまだ理解していないところもあったので、もっと調べてみようと思うきっかけになりました。
■横江先生の子どもについての思い（考え）にとっても共感を覚えました。先ず親が子どもの権利について向き合うべきです。そして子どもと真剣にコミュニケーションする明るい未来を見つけましょう。
■子どもまんなか社会""の実現に向け、どれだけの方が理解しているのか・・・？が気になるところです。理想的ですが、他人でも我が子のように接する人々が増えると良いと心より願います。日本には、児童憲章があると思いますが、戦後混乱していた日本の状況をかんがみると素晴らしいものでは・・・と感じます。
■「子ども個人として尊重する」大切さ
■子どもの考えが無視されないための大切な意思表明。 17条 子どもは自由をうばわれてはいけない。 意見を言える場所をつくる。 子どもの為に予算をかける。 社会全体で考える。 大人が決める（子供の意見を聞きながら大人が決める）4つ ・差別の禁止 ・生命、生存及び発達の権利 ・子どもの意見表明 ・子どもの最善の利益 難易度が高い＝社会の成熟、支援の輪が必要。
■子どもの権利が凄くよく分かり、勉強になりました。 子どもに直接関わる仕事に就いている全ての人、そうでない人も念頭に置き、子どもを守ってほしいと心から思いました。
憲法と子どもの権利の関連性や大人としての考えるべきことを知れた。
こども権利の具体的な課題がありむずかしいことを知りました。

Q8.
基調講演（1）について,ご意見やご感想をお聞かせください。(2/3)

■西山先生がおっしゃっていた子どもの権利の保障は難しいという言葉が印象的でした。「子どもの権利」を考えるいい機会になった。こどもの貧困を解消することがこどもの権利を守ることであることが良くわかりました。子どもというフレームで考えるというのがわかりやすかったです。
■少し難しかったです。もっと事例があるとわかりやすかったかと思います。
憲法から考えるというのは初めてだったので、良いアプローチ・観点だと思いました。子どもの権利について具体的に考えることが出来ました。
■憲法学からの視点では、基本的なこどもの権利についてわかりやすい説明で理解でき、具体的と考えることができました。
以前プレーパークのことをとりあげている番組で、「手のあいている暇そうにしている大人が相談しやすい」から、あえて暇そうにしていると支援の方が話していました。今回の話を聴いてなるほどと思いました。屋嘉部さん、伊禮さんの勇気に尊敬します。話してくれてありがとうございました。 教育現場にゆとりができるとよいのではと思いました。
■もう少しゆっくり話して頂けたらと思います。言葉がむずかしい。
■大変参考になりました。
■子どもの権利のむずかしさがよくわかりました。
■憲法の中の子ども権利について、とてもわかりやすかった。今年9月に大阪の田島南小・中学校で行われた研究授業に参加しました。「子ども権利条約」の授業をやっており、その取り組みは大変良いと感じました。沖縄でも、大人だけではなく子どもと一緒に学ぶ機会を作ってほしいです。
■子どもの権利を守るためには、社会の理解や協力が必要であり、コストが求められていることを念頭に置いて進めていく必要があると感じました。
■子どもの時期ならではの権利－個人としての尊厳「こども基本法」＝子どもの最善
■難しい内容を整理して分かりやすく説明してもらいました。
■現状のデータもあり理解しやすかった。 子どもの権利がここまで整っていることが知れた。
■「子どもと大人　フレームを分けて考える」ということから、子供の権利というのは大人と同じく、個人として尊重される子ども自身の考えをもとに生きることができるというのを強く感じました。
■貧困の連鎖
■子どもの権利は色々種類があると分かった。
■最初の写真が子供だったから、大人だったらというところがすごくわかりやすかったです。
いろんな目線で講話が聞けて子どもの権利について考える時間をありがとうございました。
■大人""と""子ども""という異なる視点 一人の個人でありながら、社会、教育を関係上の中で守られながら育つ存在。大人の責任は重いなと改めてつらくなりました。
■西山先生の講義、とても良かったです。
■スライドの説明資料が少し難しかった。
■子どもの意見を親が無視しても結局責任を負うのは子どもだと聞いて、はっとさせられました。
■参加者には子どももいたのでもう少しカジュアルにみ砕いて話してもよかったのかも。
■日本国憲法と子どもの権利が同じ方向を向いているという気づきを頂きました。同時に、子どもの権利に存在するパターナリズムと個人としてとらえる考えが、とても興味深かったです。
■内容について項目だけでも印刷した資料が欲しかった。似た語が並ぶと混乱して思考もでなきない。
■法律視点での講演は、基本的な人権に関する考え方からとても参考になりました。
■とてもわかりやすくよかったです
■子どもの意見表明権は初めて聞いたので、勉強になった。子どもだった私も子の親になったので、自分の子ども含め権利を侵害しない様に学び続けたい。
■意見表明権という権利について初めて知り得ました。とても重要であるとかんじました。また、意見表明のための表現力・・言語化力の教育が大事だとも思いました。
■憲法に於いては個人の尊厳一番重要であること。意見表明は子どもがするが、責任は大人が負うこと。子どもはその結果を負うこと。今後はこれらを意識して行きたいと思いました。とても勉強になりました。
■子どもの権利条約第17条を考えてみたいです
憲法から見る子どもの権利について考えることで、基本的人権と子どもの権利の射程の違いについて考えることができて良かった。

Q8.
基調講演（1）について,ご意見やご感想をお聞かせください。(3/3)

■時間が短く残念でした。もっと西山先生のお話が聞きたかったです。

■こどもの権利を保障すると為には、大人の覚悟も必要なんだと感じた。

■子どもの権利についての日本の認識について、これまでの歴史的背景を踏まえて理解することで、これからの取組みの視点になることがわかりました。

■時間が30分と言う枠であったことから、内容を集約して講義していたのかなとの印象があります。もう少し時間があればさらに理解を深めることが出来たと思います。内容に興味があるので少し残念でした。

子どもの権利条約について、憲法の視点から再確認することができました。貴重な学びの時間でした。感謝です。

■子どもの時期ならではの権利、が盲点だったと気づけた。そこに複雑さ難しさもあると理解しました。

伝えたいポイントがとても強調されており、気づきが明確になった。子どもの権利を保護するためのコストをかけること、「子どもの意見を尊重して、大人が決定する。」という意味などが特に印象に残った。

■難しいワードが多く、何となくはわかったが、理解するには至らなかった。

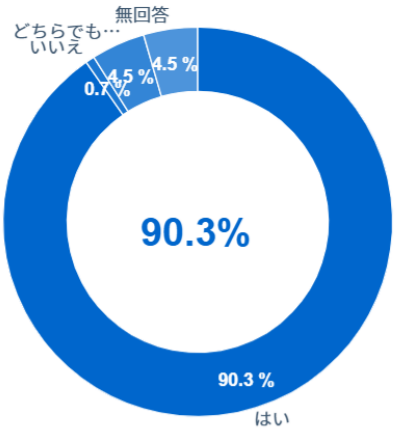
■子どもの権利を考えるとき、「子どもの意見を聞き、大人が決める」という言葉がとても印象的でした。 あと、子どもの権利の一つ、「適切な情報の入手」について今後も意識していこうと思います。

今まで子どもの権利を漠然としか捉えられていなかったので、概要を体系的にわかりやすく説明してもらえて勉強になりました。パターナリズムという言葉を初めて知りました。

Q9.

以下の基調講演（2）について評価をお聞かせください。
基調講演（2）「権利の視点から考える『沖縄県の子どもの貧困』」
講師：山野 良一 氏（沖縄大学人文学部福祉文化学科社会福祉専攻 教授）

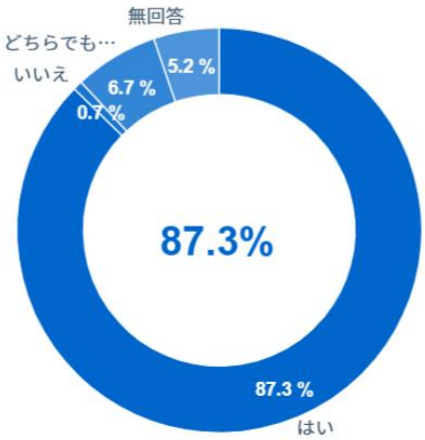
1．講演の内容に興味を持てましたか。
(回答数: 134)



Q10.

以下の基調講演（2）について評価をお聞かせください。
基調講演（2）「権利の視点から考える『沖縄県の子どもの貧困』」
講師：山野 良一 氏（沖縄大学人文学部福祉文化学科社会福祉専攻 教授）

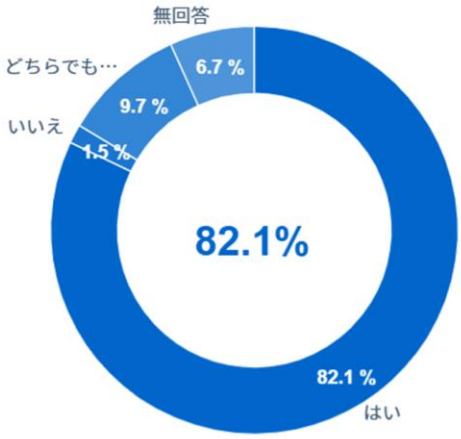
2．あなたにとって参考になりましたか。
(回答数: 134)



Q11.

以下の基調講演（2）について評価をお聞かせください。
基調講演（2）「権利の視点から考える『沖縄県の子どもの貧困』」
講師：山野 良一 氏（沖縄大学人文学部福祉文化学科社会福祉専攻 教授）

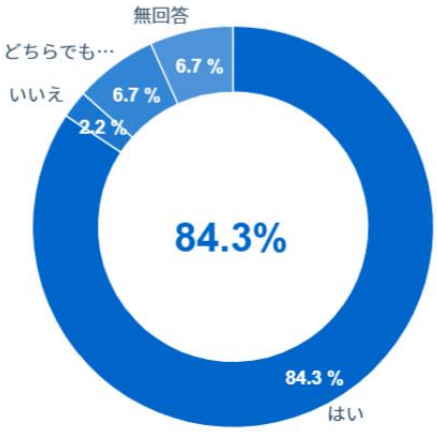
3．講演はわかりやすい内容でしたか。
(回答数: 134)



Q12.

以下の基調講演（2）について評価をお聞かせください。
基調講演（2）「権利の視点から考える『沖縄県の子どもの貧困』」
講師：山野 良一 氏（沖縄大学人文学部福祉文化学科社会福祉専攻 教授）

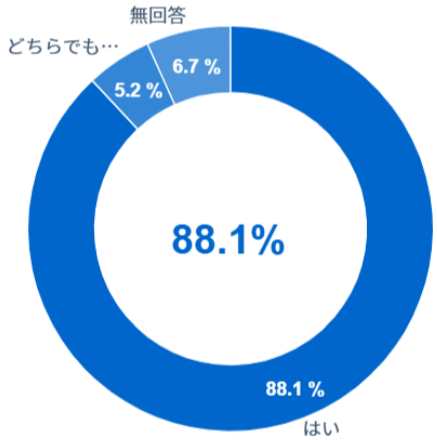
4．講演の内容は理解できましたか。
(回答数: 134)



Q13.

以下の基調講演（2）について評価をお聞かせください。
基調講演（2）「権利の視点から考える『沖縄県の子どもの貧困』」
講師：山野 良一 氏（沖縄大学人文学部福祉文化学科社会福祉専攻 教授）

5．子どもの権利について、考えるきっかけとなりましたか。
(回答数: 134)



Q14. 基調講演（2）について、ご意見やご感想をお聞かせください。(1/3)

■自由記述の最後の文が辛かった。子どもが自分の成長に邁進できず大人を支える必要を感じてしまっている。そして、この状況を作っている大人の社会側の制度（長時間労働等）の改善が必要。
■高校生のアンケート結果については感激しました。 子どもたちが社会に対してあきらめない、希望を持てるようなおとなになって子どもたちに向き合いたいと思いました。
■データをもとに話してくれていたので良かったです。
■大人が知らない、知るチャンスが無かったりすると思う。 行政の周知活動、市民が情報をキャッチしに行けることが出来たらいい！
■子どもの貧困が経済的側面から起きていることが手に取るように分かった。学ぶこと、経験すること、教育の権利が保障されるべき。今後、子どもと付き合う時、このようなことを考えて向き合うことを心がけようと思う。
■子ども園を経営していると、”子どもの最善の利益”に関しまして、私たちなりに考えて実践しているつもりです。しかしながら時おり保護者とのギャップを感じる時があります。また、保護者の中には”利益”だけが一人歩きし、園長はぼろもうけしていると考える保護者がいると子ども家庭庁の方が研修で仰られていた事に驚きました。残念でなりません。
■「貧困」の問題はやはり根本
■信頼できる大人（身近な大人） オンブズマン制度（困難の中にいる人の相談する人、場所があるといいな） 権利を守るための公的機関が必要。
■県内のヤングケアラーの背景等良くわかり、凄くよかったです。
■調査からみえてきたことと、子どもの心によりそうあたたかさを感じた。
■個人の尊重や尊厳が大事であると感じた。 見せかけの支援ではなく、大人を含めた幸せが貧困の減少につながると感じる。
■西山先生のお話はわかりやすかった。 漠然ともっている”沖縄のこどもの貧困”について、白書を読んでみたいと思いました。
■表やグラフ、統計情報などは字が小さくて見づらかった。
■貧困の考え方が今までと違うかんかくになった。
■こどもを権利の主体としてとらえ こどもがこどもらしくある社会をつくっていただきたいです。
■ヤングケアラーの部分が現状など示されていて理解につながりました。
■沖縄の実態に触れた内容でわかりやすい内容でした。 最後の高校生の声に胸がズキンとしました。本当に、貧困がなくなるように社会全体で考え取り組んでいく必要を改めて強く感じました。 労働条件、環境も考えていきたい。
■当事者である子どもの声を直接聞くことが出来てとても良かったです。
■貧困の改善の一助となる体験の格差、情報の格差の改善は自治体業務で改善すべきところであり、必要とする人へ支援が届く行政に努めたいと感じました。
■アドボカシー（アドボゲイト）という言葉をはじめて知りました。こどもが声を出しやすいような環境や人の力が重要だと思います。「話しても大丈夫だ」と思ってもらえるようなかかわりができるようそのノウハウを学んでみたいと思いました。 行政の行っている支援をわかりやすく伝えていく必要があるのだと感じました。アウトリーチでわかりやすくが課題だと思います。
■パネリストに、2名の高校生がいてそっちょくな言葉をきけてよかった。
■何か役に立てる事はないかと考えさせられた。
■貧困問題、ヤングケアラー、アンケート調査参考になりました。
■子どもの意志表明権の実質化は今まで考えたことがない新たな視点だった。 はっとさせられた。
■子どもの貧困調査を通してのおはなしがとてもわかりやすかったです。
■高校生から素直な意見を聞くことができて良かった。 高校生だけでなく、小・中学生からも話をきく事ができたらいいなと思った。「子どもの意見表明権」の話をしつつ、ディスカッションでそれが実現されているか気になった。 （高校生にふった際に大人の誘導質問になってないかなど・・・）
■沖縄県の調査を基に、具体的な例を示しながらどんなときに貧困だと感じられるか説明いただけたので、貧困に対する解像度が上がりました。
■沖縄のこどもの貧困について考えることを大人として考えなければならないと思いました。

Q14. 基調講演（2）について、ご意見やご感想をお聞かせください。(2/3)

■家庭・学校－やすらげない生きづらさ ゲームに助けられた「子どもの意見表明権」子ども1人に責任を負わせない。
■経済的格差から生じる経験的格差について、アンケート結果をふまえて知ることができた。 中学、高校、大学と進学するにつれ、周囲との経験的格差を感じることが多いように思われる。また、県内よりも県外の方と接するときにそのような格差を感じる。他方で、県や市の施策で格差を埋めようとするものもある。公共の予算を用いる以上、費用対効果をも考慮しなければならないとも思われるが、殊教育的施策について、より多くの学生、生徒に機会が保証されるべきと思われる。
■高校生の自由記述が、大変考えさせられました。
■代弁者になるとの大切さを改めて認識できた。
■低所得者層の子どもに学びや体験の格差があることをデータから知り、ヤングケアラー、アルバイトで時間を取られている、精神的な余裕がなくなっている現状、変えていかなければと思いました。
■貧困の連鎖
■母子家庭で子育てをしているので、とても胸が苦しくなる場面がいくつかありました。子供の権利を守れる親でありたいと思います。
■少し難しかったですがいろんな意味で考えさせられた。ありがとうございました。
■高校生2名の話が一番分かりやすかったでえす。 たいしたものですね。 市長の話も分かりやすかったです。
■全国調査、アンケートの高校生の意見を聞いていて、自分の思い、辛さを言葉にできる、またそれを発信できることにある意味強さを感じます。
■環境整備の重要性を改めて感じた。
■沖縄の子どもの貧困の実態が見える有意義な講演だった。 Ⅰ、Ⅱともに、もう少し詳しく深堀掘りした内容も聞きたかった。 時間はもう少し長くてもいいと個人的には感じた。
■低所得になるにつれて、スマホなどの私たちが持っているものも持ちにくいと聞き、ゲームやYouTubeなどの流行の話についていけなかったりするので、私たちもニュースなどの誰でも分かる話題を積極的に話したいと思いました。
■自分の学生時代を振り返り、現在も変わらずアルバイトに時間をついやす子ども達が多くいた。 あたり前のことなのか、異常なことなのか分からない。
■貧困が子どもの権利の侵害につながることを再認識しました。市政に子どもの貧困、権利に対する条文をぜひ追加して頂きたい。
■紙資料についてⅠと同様、スクリーン表示データの文字のサイズ小さすぎ！色も使えばいいのに。
■貧困、所得(貧富)の格差などにより教育を受けられないとか、いろいろな経験、知識が習得できないなど、格差が広がることについて考えさせられました。
■具体的な現状がわかりました
■実際のデータで低所得層では様々な機会損失があることを見せつけられ、県として、国として改善しなければならないと感じた。
■ニュースなどで沖縄の貧困やヤングケアラーの問題について話されていますが、今回の講演でデータで示されていたことが、理解し易くとても勉強になりました。
■経済格差や体験格差から生じる社会的な差別が大きな問題であることを学びました。これらを解消する方策は我々大人がしっかり考えて行かなければならないと思いました。
■4原則を経済格差の観点からみるという提案が良かった。改めて子どもの貧困対策を進まなければならないと感じた。
■調査結果は、ホームページから見ることができるので、もっと山野先生のお考えのお話を聞きたかったです。
子どもの貧困とは、経済的な問題だけではないことを知った。『子どもが子どもらしくできる沖縄を目指したい』との高校生の言葉を頼もしく感じた。
■沖縄の貧困問題は、子ども達の未来にとって大き過ぎる課題であり、社会全体で取り組むべきだとわかりました。
子供の貧困を身近にも感じる事があって、今の沖縄の子供達の実態をグラフで説明されており、より実感することが出来ました。今後、考えるきっかけが出来ました。
■調査資料等をふんだんに活用したわかりやすく勉強になりました。資料を入手したいと思います。「自由」と「縦、横、車輪のつながり」について、私は就学前のこどもにかかわるものとして、再考する時間となりました。

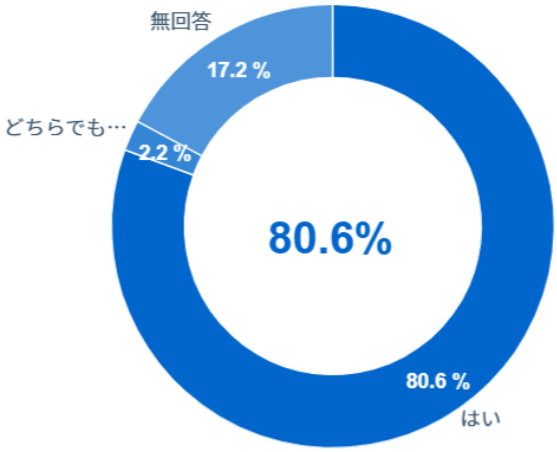
Q14. 基調講演（2）について、ご意見やご感想をお聞かせください。(3/3)

■子どもの貧困は子供の権利が守られていない状況、分かりやすい。子どもの貧困は複雑に見えるが、経済的貧困と人権擁護意識の低さ、が根っこなのかな、と思いました。経済対策だけしてもたりない、
■子どもの貧困という意味。さらに沖縄に絞った時の分析。こちらも気づきを与えてくれる意義のある講演と感じた。ややデータを読み上げるだけの時間が多かったかな、もう少し納得のいく分析に落とし込みたかったなという気もする。（聞き漏らしていただけかもしれないが…。）
■貧困と体験格差の話、考えさせられました。
■子どもたちの貧困についてはこれまでも新聞等で多く報じられております、既出の情報が多く、あまり「おっ」となることは少なかったです。
■実際のアンケート調査の結果が印象的でした。

Q15.

本日のパネルディスカッションについて評価をお聞かせください。

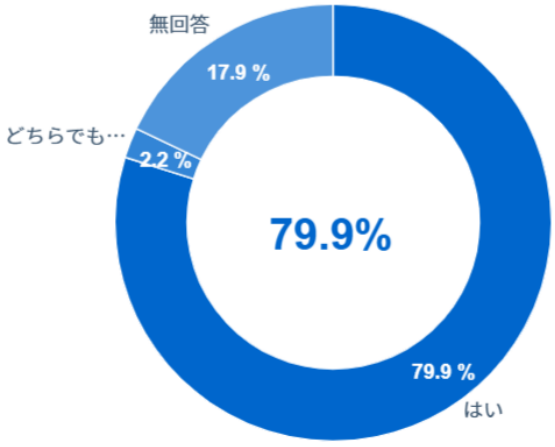
1．パネルディスカッションの内容に興味を持てましたか。
(回答数: 134)



Q16.

本日のパネルディスカッションについて評価をお聞かせください。

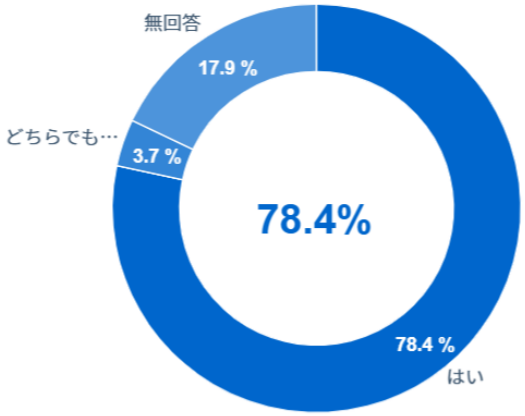
2．あなたにとって参考になりましたか。
(回答数: 134)



Q17.

本日のパネルディスカッションについて評価をお聞かせください。

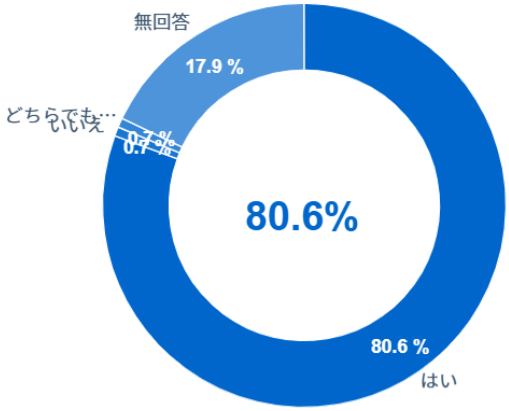
2．パネルディスカッションはわかりやすい内容でしたか。
(回答数: 134)



Q18.

本日のパネルディスカッションについて評価をお聞かせください。

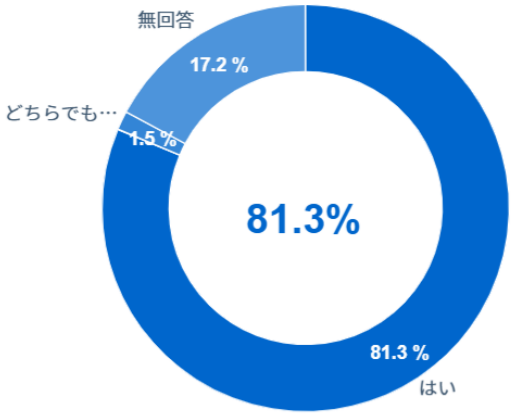
4．パネルディスカッションの内容は理解できましたか。
(回答数: 134)



Q19.

本日のパネルディスカッションについて評価をお聞かせください。

5．子どもの権利について、考えるきっかけとなりましたか。
(回答数: 134)



Q20. パネルディスカッションについて、ご意見やご感想をお聞かせください。(1/4)

■別機関の公務員ですが、興味があり参加した。職場でのWLB研修等で感じるのは子供側の視点の欠落です。WLB研修にも教育の観点、自身の働き方により子供から欠けてしまうものについても盛り込むべきではと感じた。
■子どもの権利条約を改めて学びなおしたいと思います。行政にてアウトリーチ支援をしています。困窮世帯の子ども達の中には日々の自己選択の機会がとても少ないと感じます。そもそも、声を出す、出しても大丈夫という安心感の元で育つことができていないなと。それは保護者だけが抱えるものではなく、社会全体で抱え声を出せる機会の確保をしていく必要があります。抱の奥田氏が「家族機能の社会化」という言葉を使い、自己責任にしない、させない社会を作っていこう、と話しています。子どもの権利を守る、声を大事にしていくためにも、視野を広く持ち、子どもたちや周りの大人も一緒に幸せに暮らしていける社会を皆でつながり作っていけたら、と思いました。登壇者の皆さん、貴重なお話ありがとうございました。
■資料を見たら分かりやすかった
■不登校のころがあった高校生がステージに上がって発言している成長、勇気に拍手です。不安を感じたら悩みながらも子どもは体験を重ねて勉強することをあきらめなければ大きく成長していくことを見させていただいた気がします。
■高校生2人の意見がとてもすばらしかった。
■それぞれの立場で説明が分かりやすかった。
■高校生当事者が参加していたのが何よりも良かったです。 質問です。今、実際、不登校の生徒さんの支援の一人として関わらせてもらっています。子ども達が苦しい思いをしているのは所属している学校の先生たちが子ども達の思いをきいてくれない環境にあって苦しんでいる現状です。この状況の中で先生方へ子どもの権利について理解してもらうにはどうしたらいいですか？ また、それを進めていくためには私達関係者はどこに働きかけたらいいですか？
■子どもの人権について大切なことなのに日頃見過ごしすぎてしまっている。反省そのものです。一人ひとりを大切に間の当たりに声かけしていく所存です。
■体験の格差、情報の格差（アクセサビリティー）等の低さが権利を阻害していると思うと、心が痛くなります。大人が良かれと思っている言動が、誠に子どもにとって良いのかと考えると改めて、考える事の大切さを思いました。子どもの声を聴く、子どもの意見を尊重できるならば幸いです。
■テンポ、論点の進め方にもう少しスピード感があっても良い。・時間配分がもうひとつ
■子どもを自由にするとわがままになる→ではない。目的と手段がともなう（ルールや校則） 子ども達が自分たちでルールを決める。相談しやすい大人がいること。
■安寿さん、愛梨さん、色々話してくれてありがとうございました。会場に来てくれていた2人の同級生もありがとうございました。感謝です。
■とても分かりやすく、楽しくあたたかな時間でした。
■伊禮さん、屋嘉部さんの素直な話しぶりが大変よかった。進行のコーディネーターの言葉が流暢すぎて、私には少し聞き取りにくかったです。
■より深い認識につながった。
■両義性を持った権利、両方の視点　依存させられない実態。できる事を増やす。できない事を学校が対応できなかった。
■伊禮さん屋嘉部さんの実体験を聞けたのがとても良かった。
■学生が登壇していたのがとてもよかった。リアルに当事者としての声がとてもひびいた。市長にもっと那覇市としての取り組みや課題意識施策を話してほしかった。
■高校生の登壇は良い取組だと思った。ただ、パネリストが多すぎかな。
■トライ式高等学院の学生の参加がよかった。当事者としての話がきけてよかった。
■高校生が登壇してくれたのはよかったです。
■高校生パネリストのお二人さん、大変な苦しい時期をのりこえて登壇する姿に感動しました。これからも人生をたのしんでがんばってね。
■それぞれの立場から話をされていて、パネリストのバランスが良いと思いました。
■子どもの権利条例を早くできるといいと思います。

Q20. パネルディスカッションについて、ご意見やご感想をお聞かせください。(2/4)

■赤ちゃんでも真剣に話をきいているとしっかりきいてくれます。人権意識は小さいうちから育てていくものだと思います。私の職場でできることをやっていきたいと思います。良い機会を与えて下さり、ありがとうございました。
■「こどもに権利が無い」と思いこんでいる大人を減らしていきたい。子どもたちへの広報も増やしてほしい。
■子供とおとなの話しあいで、子供が対等に話す事が良かったと思います。
■当事者の意見、お話が大変良かった。人権について考えが深まった。
■高校生の生の声が聞けたのは非常に良かった。雰囲気も良かった（和か）
■高校生の声が聞けてよかった。子どもの声に寄り添ってくれる大人
■当事者である子どもの立場から話をきけたのが非常によかった。
■とてもよかった。子どもの当事者からのそっちょくな意見があって、とりくんでいる先生方のおもいも説明もあって、わかりやすかった。子どもの権利について、さらに深めて考えることができた。
■大阪の田島南小・中で実践されている「子どもの人権教育」をぜひ沖縄でもやってほしいです。
■高校生の方にもパネリストとして出演していただいたことはとても良かったと思います。
■高校生が沖縄の貧困問題に取りくんでいる姿をきくことができてよかったです。こども達が希望をもてる世の中であるために、何かできることを探していきたい
■行政の情報発信は大事だと思いました。もっと色々な情報を発信してほしい。
とてもよい内容だったと思います。
■高校生の率直な意見をきくことができ良かった。子供の権利について、考えるだけでなく、実行できる大人にならなければならないと感じた。
■当事者の思いはシンプルで「子どもにとって」を身近な大人が1人でも多く意識が必要な社会づくりができていく事を願います。
■内容に具体例が少なかったので、抽象的な印象だったのが少し残念でした。会場からの意見も何人か聞いた方がもっと充実した内容になったと思う。或いは、あえて会場からの意見は入れないような方針としたのかとも思う。（那覇市長が登壇者におり、対応が難しくなるから？）
子ども達の声を聴く大人がいないとの声は、つらかった。
■当事者もいて聞きやすかった。市長の話を聞いてがんばっているのは理解できたが、制度のはざまにいる人たちを民間が努力して支えている現状は分からないのかな。と感じた。
■登壇した学生2人の話を聞いて、沖縄の未来は明るいと感じました。つらい経験だけでなくきっかけをいかして自身の話をちゃんとできるのがとても素晴らしかったです。那覇だけでなく、沖縄全体で、子どもの権利が理解される社会ができることを目指しましょう。
■高校生の生の声が聞けて、貴重だったと思います。テーマにある子どもの権利をどう理解するか、深められた時間となり、聴けて良かったです。より考える機会となりました。
■当事者の高校生が自信を持って活動の報告をしていて良かった。
■実際に会った体験格差などを知れた。
■子どもの権利を理解されるような社会をどうやったらつくっていけるか・・・。大人にゆとり＆知識が必要だと思いました。
■高校生の意見、那覇市の事業所kukuluの取り組みが聞けて良かったです。権利について学んでこなかった大人が子供の権利について考えているっていうところも、やはり穴が多い理由なのかと思いました。アップデートしていきたいです。
■子どもの権利を理解するための色々な意見が出て良かったです。教員に子どもの権利を十分に理解してもらう事がまず初めの一歩であり、極めて重要な事だと思います。
■高校生の生の声が聞けてよかったです。
■屋嘉部さん、伊禮さんの声を聞けたことに感謝します。
■当事者もいたのでよかった。

Q20. パネルディスカッションについて、ご意見やご感想をお聞かせください。(3/4)

■子ども代表の2人を中心に進めたのがとても良かった。市長が端に座していたのも良かった。
子どもの生の声がすべて。トライ式高等学院の2人がパネリストとしていることで、このシンポジウムの価値が上がったと感じます。 おふたりは、とても緊張していたと思うので、アフターフォローを願います。
■様々な理由で不登校になり、自分で進路を選択しこのシンポジウムに当事者として登壇していてえらいと思いました。子どもに選択肢をあたえ、権利を尊重してあげる、すばらしい会だと思いました。
■ちゅらゆいの今木さんのお話を聞きながら、知り合いの子を思い出していました。 その子は私はまだ知らない、親しくないと思って、あまり関わっていなかったのですが、本日お話を聞いて、支援機関に繋げる事もそうですが、自分も、彼女を守るために、まず関わりを持っていこうと思いました。
■ 2人の高校生のつらい経験など話してくれて、今の現状に安心感があるんだと感じました。今後の参考にします。
■学生からの意見等も聞けたので学びが多かった。もっと若者の参加があってもよかったのかなと感じた。 子育て中の方の参加ももっとあってよいのかな？
特に高校生のお2人のお話が新鮮でなるほどと思うところが多々ありました。 緊張されたと思いますが、登壇していただきありがとうございました。
■子どもの権利を守るには子どもの声を聞くことが大事。パネルディスカッションに通信制高校生のお二人が参加して、意見や体験談、校則への意見などを交えながらの意見交換でしたが、とても良かったと思います。
■アノミーの子たちの声、ちゅらゆいの活動、那覇市として取り組んでいる事などを聞けてよかったです。 アノミーのメンバーには児童館でのボランティアをしてもらっていたので感謝しています。ますますの活躍を応援しています。 子どもの居場所として、児童館というワードが出て嬉しかったです。子どもの声の代弁者になれるようにこれからも頑張ります。
■高校生の2人が自分の意見を述べるのがかっこいいし、凄いなと思いました。 主体的に、子どもの体験格差や経験格差の解消のために動きたいなと感じた。 自分の周りにはそういうリソースが他より多くあるはずなので、形にしたい。
■高校生もパネリストに参加されていることは、子ども自身の立場からの意見が聴けるチャンスだと感じました。
■登壇された高校生お二人の率直な意見が新鮮でした。バターナリズムが一より広く認知され、社会全体で子どもの権利についてより深く理解される日が訪れる日を心より願います。
■高校生の意見に共感しましたし、問題に対する課題は速やかに解決すべきだと思いました
事前の打ち合わせがしっかりされていて内容が濃いパネルディスカッションだと感じた。
■子どもの権利について考えるものなのに、横文字の説明が多く内容がわかりづらいのではないかと思った。特に大学教授。子どもの意見を表明できるようにと話している場で意見が述べづらいような要因を使っているように感じた。
■不登校を経験した高校生の当事者としてのお話や意見が聞けたこと、またその場に市長や、市の職員らしき方々、市議の方も聞いてくださったことが良かったと思います
■コーディネーターが、言葉の解説をしてくれたのが良かった。アドボカシを知ることができた。子どもに寄り添って話を聞ける大人でありたい。高校生のパネリストの素直な意見が良かった。
パネリストの方々のお話を聞かせていただくことで、現状と課題、そして、実際活動している内容を知ることができました。
■高校生が登壇すると言う、とても斬新な光景でした。高校生の生の声やNPOのバネラーの実状など、子供の権利と言うキーワードがすごく身近に感じることが出来ました。
■素晴らしい取り組みだと思います。こどもからの意見にもあったように、打ち上げ花火、イベントだけにとどまらない那覇市の行政に期待します。

Q20. パネルディスカッションについて、ご意見やご感想をお聞かせください。（4/4）

■社会が成熟していないと、 教育行政の立場での参加でしたが、前市長、知念市長から目に見えて、子ども、教育への取組が進んでる。もちろん、行き届かない部分もあるので、社会全体で支えるが必要。社会教育の重要性が増している

■パネリストの人選がとても良いと思いました。それだけに、ディスカッションではなく一問一答に傾いていたこと、コーディネーターが話すぎの節があった点に勿体ないと感じました。属性の違う人たちだからこそ、できるだけパネリスト同士の議論を重視すべきと思いました。（高校生2人の負担が増えてしまうかもなので、そこをフォローできるかの問題はあるのでしょうが…。）

■当事者である高校生の考え、実体験など生の聞け、子どもの権利について理解、尊重することの大切さを改めて感じ、とても有意義なパネルディスカッションだった。

■パネリスト同士が互いに自由に話すスタイルをききたかった。打ち合わせの中に、大切なポイントがあったのではないかなぁと、想像しました。

■パネリストの人選、良かったです。特に 不登校を経験した高校生の生の声が聞けて良かった。2人とも、一生懸命考えて話す姿に、涙しました。

■高校生の実際の体験談が聞けてよかった。

Q21.本日のシンポジウム全体について、ご意見やご感想をお聞かせください。（1/3）

■人権について改めて考えるいい時間でした。 時間は長い、20時に終了してほしかった。バスの時間もあるので、このシンポジウムを通して社会が良くなるように取組みできることを期待します。
■子どもの権利について高校生がパネリストとして参加していたのが印象的でした。大人と共に子どもの人権、存在を守る重要性を改めて考えるに至った。子どもの人権を守り成人として成長する課程がいかに大切であるか寄り添いたく思う。
■このような素晴らしいシンポジウムが開かれ参席できて良かったです。 人一人ひとりの個性、特徴等に寄り添い、尊重され、生かされる社会作りに微力ながら努めたいと思います。このようなシンポジウムを今後も行ってほしいです。
■長い。今ひとつ方向性が見えなくてつらかった。・平日の夕方には難しい。・テーマが大きすぎて漠然としている。内容が遠い。
■大人と子どもはパートナー 人権：自由がある、目的と手段がある ・体験の格差（県外の子と比べて） ・経済の格差（入学の援助） ・医療費 今必要なものは何か？ （学びクーポン、塾代）
■那覇市が県を引っ張っていけること、期待できました。 今後とも、子ども達のために頑張って下さい。
■"人"を大切にできる支援者、地域づくり。那覇市として社会教育にもっと力を。
■このような子どもの権利を考える事を1回きりでなく何回も持っていただきたいと思います。 那覇市はもっと児童・生徒のための居場所、遊び場づくりに予算を出していただきたい。 形だけのシポレックスでないことを期待します。
■意思表明の大切さを認識した ・パターナリズムを理解できた ・アドボカシーを理解した ・人権教育にしっかり取り組む
■現在の学校教育制度に課題を学べました。自身でできることを考えたいと思いました。 （成績の良さだけを見る）余裕がないとの山野先生のお話もあったが、通信校が増えている印象がある中で選択肢が増えたかなと感じる。 パターンナリズム？ 強い立場にある人が弱い立場にある人の意志に関係なく介入する。知らず知らずのうちに侵害している。
あまり知らないのかな・・・と行政側ももっとがんばれと思った。 時間が長かった。子どもがいるので20時には終わってほしい。またはパンフに終了時間を書いてほしかった。
実際問題、大人同士であっても相手の「権利」を考えて話しているわけではないので、子どもに対してもそこまで厳密に考えるのではなく「個人」として存在しているんだという意識をもつことが大事なのかなと感じました。
■子どもの権利を考える機会となりました。 多くの方と、このテーマで集まれたことよかったです。 スタッフのみなさんおつかれさまでした。
■「ルールの意味を一緒に考える」印象に残った。こども基本法について初めて知る機会になった。
■時間もちょうど良いと感じました。子どもの権利を考える良い機会となり、気運の高まりにもつながったと思いました。
■時間が長すぎます。
■とても良かったです。子供の権利に関する勉強としてみたいです。
■子供の権利を理解しているようで全く理解できていなかったなと反省しました。 今回深く学ぶこと納得できとてもいい時間でした。ひき続き学んでいきます。
■大人が一緒に考える社会（子どもを守れる社会）
■会場がほとんど満席で、子どもの権利に関心がある人がこんなに多いのかとおどろきました。
■とてもよい内容でした。 横江弁護士のきき方やまわし方がとてもよかったです。
■子どもの権利条約について考える機会を与えていただき、ありがとうございました。
■パネルディスカッションがとてもよかった。

Q21.本日のシンポジウム全体について、ご意見やご感想をお聞かせください。(2/3)

■不登校の子どもをもつ親です。自分は子どもの権利を守れているのかと思い参加しました。学校では不登校の居場所や対応や進路についてあまり情報を得られず、親が自分の足で情報を集めないといけない状況ですが、時間と労力に限りがあり、例えば行政に窓口があれば、ありがたいと思います。
■オンラインでも、同時で開催すると、もっと参加する大人とこどもが増えると思います。
首長や行政の職員がこのような機会に参加し、発言、また意見を聴取することは重要だと思う。今後の市の活動に活かして欲しい。
■勉強になりました。
■子どもに携わる大人の負担や、軽視する社会へ行政の、社会の仕組みの変改を強く望みます。
■高校生の意見が聞けてよかった。
■屋嘉部さん、伊禮さん、自分の意見をしっかり伝えてくれてとてもステキでした。とても参考になりました。私も大人としてしっかり受け止めていきます。子ども権利についてもっと学び、社会に還元していきたいと思います。
■視点の変化を大人が持って子どもを見る。
■「貧困」＝かわいそう、不幸せと思い込むのは危険だなと思います。そう思われたい子ども、保護者はいないと思います。社会での居心地を悪くしてないかと考えてしまいます。必ずしも経済的に裕福＝幸せではないように感じます。（貧困がいいと肯定したいわけではないです） 安寿さん、愛梨さんの言葉がとてもステキでした。
■教育の中で、もっと子供の権利を教えていっていいと思います。
■那覇市独自にこのような子どもの権利実現のためのシンポジウムを実施した事は非常に素晴らしいと思います。パネリストの人選も良かったと思います。
■"意識"を意識して、それが無意識にできるように続けていければ。
■もっともっと多くの大人、子供に、人権を知って貰う機会を作っていってほしいです。
■時間は、もうちょっと早めがいいと思う。水曜日の21：00まで自宅に帰れないのは、多くの人が負担に感じていると思う。
■大人が変わることはモチロン、子どもたちにも権利があることを伝えていきたい。自宅にある高校時代の制服をリサイクルできる方法が分かり、助かった。
■とても良いお話ですけど、声がちょっと聞きづらいです。
■パネルディスカッションで市長のお話をきき、那覇市の施策で子どもを守る働きを進めていらっしゃると感じますが、上げられた例が全て対処に終始していると思う。予防策にも財源を割くべきかと思う。（経済、雇用、心身の自立支援など）子ども条約に期待しています。
■子どもの権利を考えるきっかけになりました。
■写真係はフラッシュをにしてOFFにして！スクリーン見ずらい。向かいにいるとまぶしい。カメラの設定で十分可能なはず。
■皆さまありがとうございました。
■子どもの権利を考えることで、子どもの意見表明権の大切さや権利がぐっと上がると言うことに同意。
■市長の話は回答になっていたのだろうか‥？ アンケート、さすがに質問が重複しすぎです。
■今後も子どもの権利を考えながら児童館としてできる取り組みや職員の意識向上に努めたいと思います。
■貴重なお話を聞くことができてよかった。那覇市として、様々な施策をしていることをしれたのも良かった。
■那覇市のイベントではあるのですが、県や国の立場の方も参加していただいて意見が聴けたらと感じました。
■時間が長く最後まで集中力がもつか心配でしたが、全体的に理解しやすい内容でした。ありがとうございました。

Q21.本日のシンポジウム全体について、ご意見やご感想をお聞かせください。(3/3)

■子どもの権利を保証する困難さ、大切さに子どもの権利について新たな視点がありました。全ての子ども達が、幸せであるような社会をつくっていけたらと思います

■登壇された皆様のお話、とても勉強になりました。 高校生の意見、素晴らしかったです。とても良いシンポジウムでした！

■こうしたシンポジの市内各所で行ってみるのはいかがでしょうか？

■登壇していた子供たちは自分の言葉でうまく話していて、こんな感じ方をするんだと勉強になった。子供に寄り添い、今あるルール、子供の質問に対してしっかり答えられる大人を増やすためにも同様のシンポジウムを何度も開催してほしい。ただ、もっとこういう背景を持った子供達とカテゴライズしてディスカッションの範囲を絞りより具体的に話す必要があると思う。

■シンポジウム案内リーフレットなどには、終わりの目安の時間を書いて欲しい。駐車場もないので、家族に送迎お願いしたが、2時間半もかかるなら、別の帰宅手段を考えたのに。ほとんどが市の職員でバス通勤だから、なはーとまでの交通は特に困らなかったかもしれないが、市民が参加していることを考えて欲しかった。 また、なはーとの玄関が、暗くて入り方がわかりづらかった。ロックされた開き戸を押したら引いたりしても開かず困った。 今日のイベント、という置き看板も入り口に置かれたいたが、入り口にも関わらずライトも付いておらず、真っ暗で「今日のイベント」の看板が意味をなしていなかった

■専門用語が理解出来ない所もあり、子どもの権利について知っているようで、知らなかったことを感じた。

■このような機会への参加は、情報を得て、皆で同じ場で考えることにつながり、貴重だと感じました。 子どもの権利のために何ができるか、何をすべきかを考えたいと思います。

■とても、いい取り組みでした。 高校生を取り組むなと斬新な切り口で行われていた事に前のめりで講演会に参加させて頂きました。ありがとうございました。 次年度も是非参加したいと思います。
こどもの対象が絞られ…限定された感はありましたが、総じて有意義な時間でした。ありがとうございました。

■コーディネーター、パネリスト、言葉一つ一つが示唆に富んでいて、本当に良かった。 ありがとうございました

■子どもの権利を保護すべき、という点において異を唱える人はほとんどいないとは思うが、その権利の正体を上手く捉えられている人はどれくらいいるのだろうか。高校生2人は、「当該権利の理解がまだ追いついていない」旨話されていたが、我々大人も大差ないと思われる。それは、これらの話が、一見ごもっともな言葉の羅列に終始し、掴むべきポイントがすぐには分からない（目や耳を通り過ぎてしまう）ことが大きいと考える。その点、今回の基調講演は、子どもの権利を考える際の基点となるポイントを与えたものであったと感じる。大変有意義でした。

■先生方の講演はワードが難しく、私の脳にはすっと入ってこなかった。わかりやすい言葉で語っていかないと『子どもの権利』が子どもたちも含め一般には普及しないのではないか。

■思ったより多くの方が来られていて驚きました。 ただ、やっぱり平日の夜は少し参加しづらいです。

■子どもの権利について考えるきっかけになった。大人にも子どもにも知ってほしいと思った。

Q22.今後聞いてみたい基調講演、パネルディスカッションのテーマ等があれば、お聞かせください。（1/2）
また、今回のプログラムのほか、追加した方がよいプログラム等があればご意見をお聞かせください。

■子どもの権利を守るために学校教育が変わらないといけないと思います。
■とても良いシンポジウムでした。那覇市だけでなく、もっと広くこのような講話をしてほしいです。
■本日の講演　子どもの権利を考えるについて 一過性にするのではなく継続していただくことを望みます。パネラーの方もそれぞれですので継続も結構ですし、変えていくのも良いかと思います。子どもの貧困をじかに感じることができ、今後の様子に耳を傾け心を開くべきだと考える。
■フラットな関係性を築く社会、今流行している"シンギラリティー"の構築に近いような考えに似ているように思えます。飛躍しすぎかも知れませんが・・・。所得、人種、宗教党にかかわらず虐待は誰にでも起こり得る行為だと思います。貧困層に多いかも知れませんが、私たちは私たちなりの支援をしているつもりですが、"パートナー"という実践ではないのかなぁと感じました。もしかしたら、日本人の謙虚さが自己肯定感の低さに撃っているのではと感じる時もあります。資本主義社会の良し悪しは別として、個性/個別競争におもむきがあり、お金持ちではないとおちこぼれ、損得勘定も関係しているのではと思う時もあります。 諸々の課題等がありますが、私は外国で滞在した経験から日本が大好きです。私は、日本が世界をリードできる素晴らしい国だと思っています。 子どもたちが安心安全に暮らせる社会、生きていける社会、笑顔が絶える事なく、僕は私は世界でただ一人しか存在しないと感じられるようにしていきたいと思いました。 世代を越え、様々な世代が交流できる場が大切かなぁと思いました。良いとこ探しも大切ですね。 保育者、教員、介護にかかわる職員をもっと大切にしてほしいですし、処遇面も考慮してほしいです。 本日はありがとうございました。
■子どもの貧困、子どもの居場所、安心できる場 ・具体的に活動している方、組織の意見、課題。 ・市長の意見、賛成です。 ・誰にでも分かりやすく！ ・先生が子ども達としっかり向き合える時間の確保、ぜひお願いします。
■子どもの権利って何ですか？ 子どもの権利条約が十分に認知されていない。 自立する前に不安定さがある。人格を持った人であること →両義性をもっているものの理解から始まる。 一つの人格として尊重される。パターナリズム＝子どもは個人なんだ　格差が出る。情報の格差がある。制度の伝え方。
那覇市のサービス一覧をどうにか周知していただきたい。多忙な中での準備進行等、本当にありがとうございました。
■沖縄の"人権"教育の大切さを感じました。"市民性の育成"を。教育に予算を。
■人権教育について
■子どもの意見表明権 ・社会が子どもたちの気分もふくめた意見をきいていく機運と環境の整備 ・子どもの居場所が単体でなく横につながっていて、子ども同士がつながるのを応援していく。 インフォームドコンセント、アドボカシー、アドボケイトの育成、子どものオンブズマン制度、人権意識子どもの権利を子ども自身が考えることを総合学習などで取り入れ、こういうところで発表などがあると大人にもっと刺さると思った。
■時間が押してる時は最後省略して終わった方がいい。降壇の時間がもったいない。
■難しいですが、国語、算数と同じ様に必須な学びだと思います。小学校から学べるといいなと思います。そして親も一緒に学びたいです。
■今日くらいの内容や時間が学ぶためにはちょうどよかったです。また、けいぞく的におこなっていただきたいです。
■中学生、小学生の児童も聞いてみたいです。
■不登校の子が県立高校に進学できるのか、など、不登校の親がかなりの費用をかけてフリースクールに通っている現状をふまえてのディスカッションなど。
■不登校、退学と子どもの社会にある問題を視点を変える世の中になるような取り組みの紹介。
■ CAPの子どもワークのように、誰でも、何歳でもわかりやすく人権を学べる時間を追加してほしいです。
■参加者がどんな方たちだったのか知りたかったです。何となくの雰囲気ですが、那覇市役所の関係者が多かったのでしょうか。
■ぜひ那覇市が子どもの権利を施策に含める時に、話し合いに参加できるような場が欲しいです。 ワークショップのように、様々な声を拾うような活動が出来たらいいなと思いました。そこに子どもたちをぜひ入れて頂きたい。
がたいです。子ども若者が発信する場をもっていただけたら参加したいです。

Q22.今後聞いてみたい基調講演、パネルディスカッションのテーマ等があれば、お聞かせください。（2/2）

また、今回のプログラムのほか、追加した方がよいプログラム等があればご意見をお聞かせください。

■子どもの権利条約を学ぶ会などあってもいいのではと思います

■子どもの居場所を支える大人が、ボランティア精神だけではなくしっかりとした社会保証や賃金を得る世の中に、なるように。後継者を増やすにはどのように取り組めばいいのか。

■子どもも大人も含めての学習についてのプログラムがあれば、参加したいと思います。生涯教育などもテーマとして取り上げて欲しいです。

■今度は子供たちが大人に質問したいことそれに対して答える大人の代表のような構図でのディスカッションも見てみたい。

■美ら結の取り組みをもっと知りたかった

■スポーツと言う目線から子供達も覗いて見るのもあるのでは。スポーツで関わる大人も会場に足を運べはより子供達の権利が身近に感じるのではないでしょうか。

■「こどもまんなか」にして頑張っている様々な現場の実践を紹介し、人権をテーマにこどもの権利を深掘りしていただきたいです。

■パネルディスカッションを聞いて意見交換をしたいとウズウズした行政職員もいたのではなかろうか。市長や子どもたち・保護者を囲んで、部局横断・職位横断の行政職員による、子どもの権利普及の手法について議論する場があれば良いなと感じた。

■幼児教育の大事さ。保育現場の実態がわかる講演を企画して欲しい。

■ききごたえのあるシンポジストの招集であったが、ききたい人に届いたかが気になる。アーカイブ配信などの工夫もあると良いと思う。また、投影資料の共有もいただけたら、各々の組織で共有できるのでありがたいです。子ども若者が発信する場をもっていただけたら参加したいです。